



議会だより

第

122号

群馬県昭和村議会

令和8年4月15日 3月定例会



Contents

| | | | |
|-----|---------|-------|---------|
| 2~3 | 令和8年度予算 | 10 | トピックス |
| 4~6 | 3月定例会 | 11~13 | 議員出前懇談会 |
| 7 | 全員協議会 | 14~20 | 村の姿勢を問う |
| 8~9 | 各常任委員会 | 21 | あの問題は今 |

8,100万円 (前年度比5.5%減)

昭和村の実現へ

「輝く昭和村」の実現を目指した予算構成になっています。限られた財源を有校基本計画策定業務・道の駅「旬采館」実施設計・猫の不妊去勢手術補助・小

歳入

自主財源

村が独自に確保できるお金。村税、繰入金など。

村税

村民税や固定資産税、軽自動車税など。

繰入金

基金を取りくずして繰り入れるお金。

依存財源

国や県の判断により割り当てられるお金。地方交付税や村債など。

地方交付税

ある一定の基準で国が市町村に支給するお金。

地方譲与税

国税として徴収したものを、市町村に対して譲与するお金。

国庫支出金

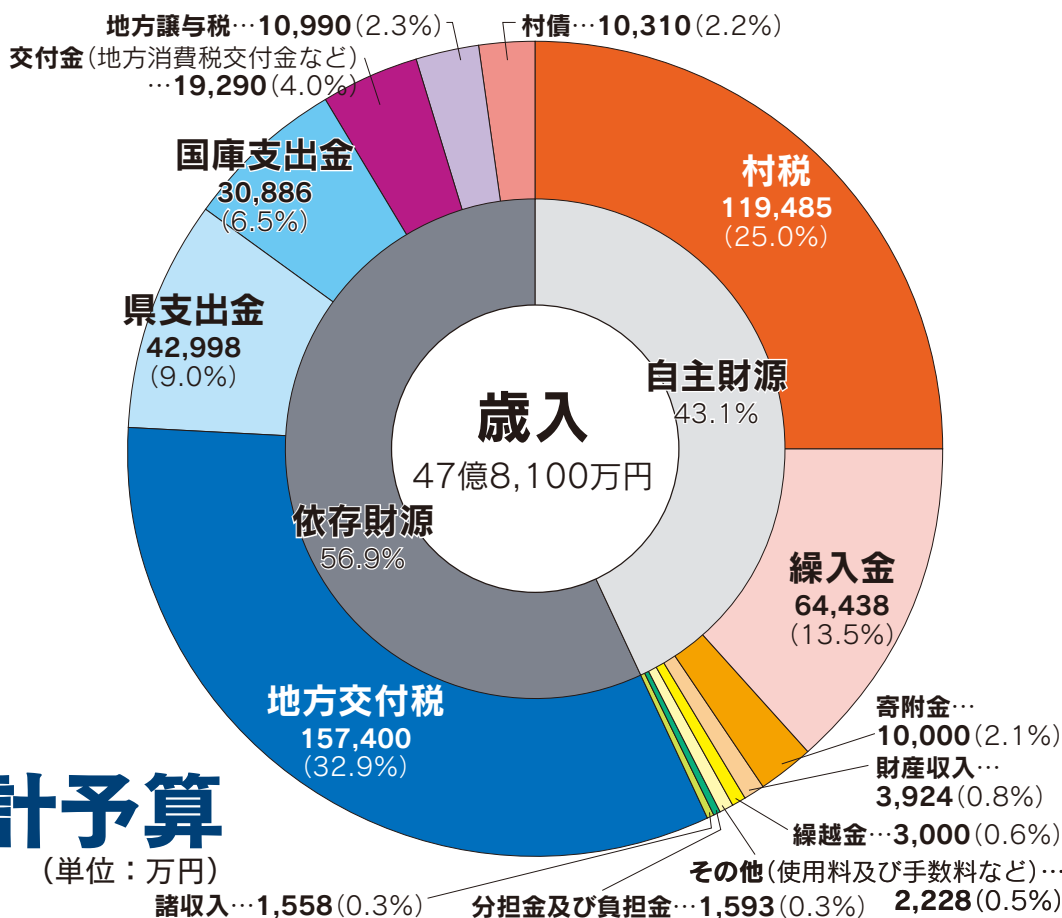
国から市町村へ特定の事業に対して支給されるお金。

県支出金

県から市町村へ特定の事業に対して支給されるお金。

村債

事業を行うために村が借入れるお金。



計予算

(単位: 万円)

特別会計予算 (前年度比2.2%増)

総額 22億44万円

| | |
|---------------------|------------|
| 国民健康保険特別会計 | 12億4,441万円 |
| 介護保険特別会計 (65歳以上) | 8億1,203万円 |
| 後期高齢者医療特別会計 (75歳以上) | 1億4,400万円 |

公営企業会計予算 (単位: 万円)

| 公営企業会計 | | 本年度予算額 | |
|--------|-----|--------|--------|
| | | 収入 | 支出 |
| 簡易水道事業 | 収益的 | 17,376 | 17,376 |
| | 資本的 | 2,390 | 5,439 |
| 下水道事業 | 収益的 | 26,089 | 26,089 |
| | 資本的 | 13,031 | 19,571 |

※支出に対する収入不足は補てん財源で補います。

令和8年度 予算

予算総額 47億

ともにつくりよう輝く

令和8年度予算は、人口減少対策・子育て支援を力強く進め「ともにつくりよう輝く」に活用するとともに、将来を見据えた持続可能な行財政を前提に、統合小中学校特別教室エアコン設置・除雪車購入などに取り組むことを承認しました。

歳出

議会費

村議会運営の経費や議員報酬など。

総務費

人件費や事務費、微税費、戸籍費、選挙費など。

民生費

社会福祉費や児童福祉費、老人福祉費など。

衛生費

ワクチン接種費や子保健事業、ゴミ処理のための経費など。

農林水産業費

農林業の振興や鳥獣害対策、土地改良事業などの経費。

土木費

村道や橋梁の整備、砂防工事、除雪費用など。

消防費

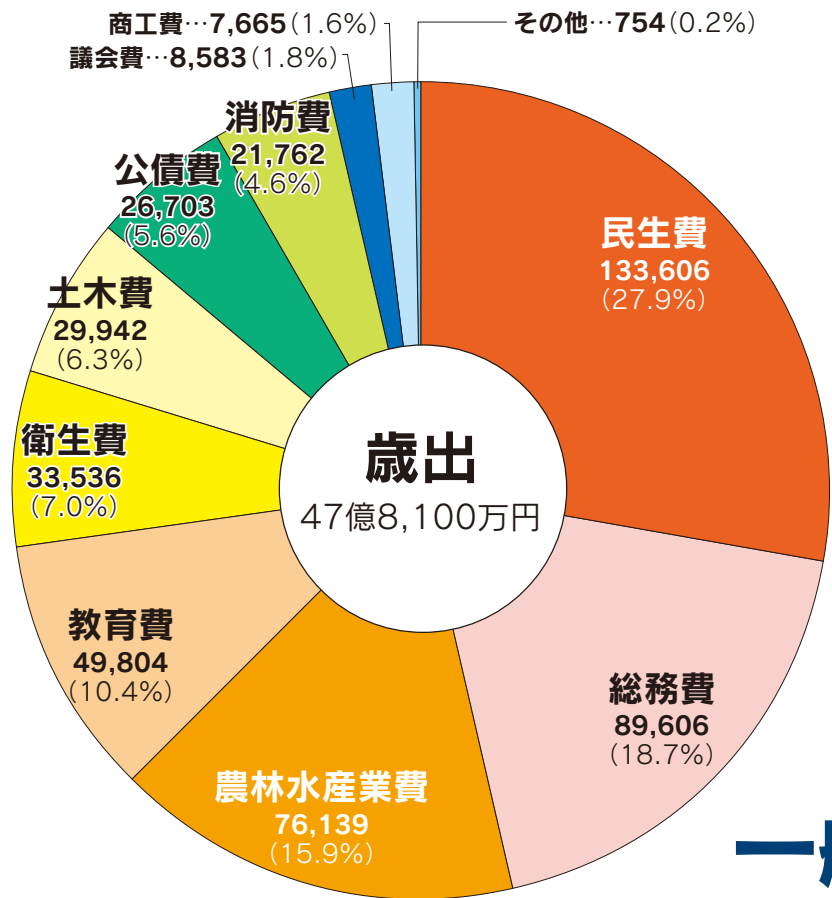
消防・防災施設整備の経費(消防団の運営など)。

教育費

小中学校の管理費、講演会・各種スポーツ大会などの経費、給食費など。

公債費

事業をするために借り入れた村債の元金・利子の返済金。



一般会

重点事業ピックアップ

子育て・教育分野

- ・統合小中学校基本計画策定業務
- ・小中学校特別教室エアコン設置
- ・地域クラブ活動支援補助金(部活動地域展開)
- ・スクールバス運行事業
- ・5歳児オンライン診療

保健・医療・福祉分野

- ・RSウイルス定期接種事業
- ・带状疱疹ワクチン定期接種事業

生活基盤分野

- ・新築住宅・住宅リフォーム補助事業

生活環境分野

- ・猫の不妊又は去勢手術費補助事業
- ・除雪車購入

産業分野

- ・大地からの贈り物をたくさん食べよう事業
- ・赤城西麓土地改良事業(敷島1-2地区)

共生・協働・行財政分野

- ・緑の大地ふるさと昭和特産品返礼事業
- ・村議会議員選挙

3月定例会

今定例会は、3月5日から17日までの13日間の会期で開催され、令和8年度予算を含む計26件(承認3件、議案22件、諮問1件)の議案をいずれも原案のとおり可決。また、7人の議員が一般質問をし、村の姿勢を問いました。

人事

昭和村教育委員会委員の任命同意

青木美穂子氏の任命に同意。



(森下中組)

諮問

人権擁護委員の推薦

諮問された湯澤泰子氏の推薦を承認。



(追分)

条例改正

昭和村災害弔慰金の支給等に関する条例の制定について

災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき、自然災害により亡くなった方の遺族に対する災害弔慰金の支

給や重度の障害を受けた方に見舞金の支給を行う。

昭和村乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について

利用乳児等の心身の健全な育成を確保し、質の高い乳児等通園支援を提供できる体制を確立。

昭和村職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について

人事院勧告に伴い、引き上げられた期末・勤勉手当を6月期と12月期に平準化。通勤手当に月額5千円を超えない範囲で、必要に応じて駐車場等の料金を支給できるようにするなど合計2本の条例改正。

昭和村福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例について

医療機関の窓口において、受給資格者の資格確認をする際に、受給資格者証に加えて、マイナンバーカードを用いて資格情報を

確認する方法を追加。

昭和村小口資金融資促進条例の一部を改正する条例について

小口資金の借換制度について、適用期間を令和9年3月31日に1年間延長。

昭和村国民健康保険条例の一部を改正する条例について

資産割の税率を段階的に引き下げ、令和8年度の医療分の税率を10%から5%に改正。

補正予算

令和7年度昭和村一般会計補正予算(第6号)

総額 4億266万8千円増額

61億5,434万円
緑の大地ふるさとしょうわ基金積立、群馬県後期高齢者医療広域連合市町村負担金返還金、体育施設等のLED化の事業実績、除雪費、学校建築基金に積み立て等。

令和7年度昭和村国民健康保険特別会計補正予算(第3号)
総額 7,054万7千円減額

12億1,346万7千円
療養諸費、高額療養費、出産育児諸費など。

令和7年度昭和村介護保険特別会計補正予算(第3号)
総額 4,689万5千円減額

8億1,106万円
介護給付費及び地域支援事業、特定入所者介護サービス給付費など。

令和7年度昭和村後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)
総額 217万円減額

1億2,249万円
後期高齢者医療広域連合納付金、保健基盤安定負担金、人間ドック補助金など。

令和7年度昭和村簡易水道事業会計補正予算(第3号)

| | | |
|----------------------|-------------|-----------|
| 収益的収支(料金・維持管理費など) | 収入 | 762万9千円減額 |
| 支出 | 314万7千円減額 | |
| 収入合計 | 1億6,589万8千円 | |
| 支出合計 | 1億6,957万1千円 | |
| 資本的収支(施設修費など) | 収入 | 68万2千円増額 |
| 支出 | 380万円減額 | |
| 収入合計 | 4,422万9千円 | |
| 支出合計 | 4,973万2千円 | |
| 新規加入者負担金、配水管敷設工事費など。 | | |

令和7年度昭和村下水道事業会計補正予算(第3号)

| | | |
|-------------------|-----------|-----------|
| 収益的収支(料金・維持管理費など) | 収入 | 871万2千円減額 |
| 支出 | 974万1千円減額 | |

令和7年度昭和村一般会計補正予算(第5号)

| | | |
|---------------------|-------------|-------------|
| 収入合計 | 2億5,979万9千円 | |
| 支出合計 | 2億5,664万5千円 | |
| 資本的収支(施設修費など) | 収入 | 1,028万6千円減額 |
| 支出 | 925万7千円減額 | |
| 収入合計 | 1億4,892万4千円 | |
| 支出合計 | 1億9,480万9千円 | |
| 農業集落排水処理場、浄化槽委託料など。 | | |

承認(専決処分)

令和7年度昭和村一般会計補正予算(第4号)

追加。
総額 57億4,392万9千円

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金、物価高対応子育て応援手当支給事業、村民一人につき1万円分の昭和村商品券配布など。

令和7年度昭和村一般会計補正予算(第5号)

774万3千円追加。
総額 57億5,167万2千円
衆議院議員総選挙費用。

和解及び損害補償の決定

令和7年11月14日、糸井地内において、走行中の車に倒木があたり、当該車両を破損した事故による損害補償。

その他

昭和村公の施設(道の駅あぐりーむ昭和)の指定管理者の指定について

道の駅あぐりーむ昭和の管理運営を、引き続き令和11年3月31日まで、(株)あぐりーむ昭和に指定する。

昭和村公の施設(昭和村農産物加工所「飛躍」)の指定管理者の指定について

農産物加工所「飛躍」の管理運営を、引き続き令和11年3月31日まで、昭和村さくら工房に指定する。



農産物加工所「飛躍」



道の駅あぐりーむ 昭和

辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について

村内の5つの地域が辺地に該当したため、それぞれの地域の総合整備計画を策定し、辺地対策事業債を活用しながら道路、水道施設の整備、除雪機械の購入を進める。



除雪車の購入にも活用

ポイント

辺地って？

駅や停留所、学校、医療機関、郵便局、市役所等までの最短の距離などから点数を算定し、指定された地域の総合整備計画を策定すると道路や医療、教育などの環境整備に有利な地方債を活用できる。

デマンドバスが導入され、路線バスの定期便が減少したことにより対象地が増えた。

全員協議会

1月・2月・3月に開催した全員協議会での協議内容は以下のとおりです。

1月12日

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業について

昭和村商品券を1人あたり1万円分配付、上下水道基本料金免除に活用する旨の説明を受け協議する。

物価高対応子育て応援手当支給事業について

18歳以下の児童1人につき2万円を支給する事業で所得制限なし、原則申請は不要との説明を受け協議する。

道の駅あぐりーむ昭和二旬菜館」の増設計画について

来客数増加により、売場スペースが手狭となっている。過去に増設を検討したが、現在の建物の構造上、必要な面積を確保できないことから、新設も含めた計画案の策定をする旨の説明を受け協議する。

1月28日

第8・9・10回昭和村統合小中学校推進協議会の報告について

建設候補地の選定方法と基準、関連法令について説明。また、候補地の現地調査を実施し、評価シートを活用して絞り込みを行うほか、先進地の視察を検討している旨の説明を受ける。

参加者の減少、植樹場所の確保が困難であることから廃止を決定。今後の管理は関係各課で連携して進める旨の説明を受け協議する。

昭和中学校の浸水想定区域の国と県の基準の違いや、建設候補地別の建設費用について説明を受ける。

国保に関わる子ども・子育て支援金について

全世代や企業、団体などの社会全体の負担分を財源として子育て世帯を支援するため、全ての公的医療保険加入者が対象で保険料と併せて徴収される旨の説明を受け協議する。

2月24日

第11回昭和村統合小中学校推進協議会の報告

昭和中学校の浸水想定区域の国と県の基準の違いや、建設候補地別の建設費用について説明を受ける。

国保に関わる子ども・子育て支援金について

全世代や企業、団体などの社会全体の負担分を財源として子育て世帯を支援するため、全ての公的医療保険加入者が対象で保険料と併せて徴収される旨の説明を受け協議する。

を受け協議する。

道の駅テナント出展者募集について

あぐりーむ館食堂を改築し、新たなテナント出店者3社の募集について説明を受け協議する。



改築を終えたあぐりーむ館

3月13日

認定農業者育成資金利子助成金交付要綱等の改正について

利子助成の対象となる資金の上限額を個人1億円、法人3億円と新たに設定するほか、金融機関の指定が廃止された旨の説明を受け協議する。

昭和村猫の不妊又は去勢手術費補助金交付要綱について

飼養管理している猫で、原則、1年度につき1世帯3匹を限度に、1匹につき不妊手術5千円、去勢手術3千円を補助する旨の説明を受け協議する。



適正な飼育で野良猫減少へ

※商品券の有効期限は令和8年10月31日まで



総務民生常任委員会

村政一般、庶務、民生、保健、他の委員会に属さない事項を所管

請願等を審査 1件趣旨採択、2件不採択、村内3保育園を視察

3月12日に総務民生常任委員会を開催し、請願等について審査しました。

審査

「MRNAワクチン（レプリコンワクチンを含む）接種事業の中止の意見書提出を求める陳情書」を不採択

各種予防接種の副反応には個人差があり、各個人の判断によって接種を決定する「任意接種」となっていることから、全会一致で不採択とすべきものとした。

「新宿区において顕在化した事例を受けて、政党機関紙の庁舎内勧誘行為に関する早期の実態把握と再発防止を求める陳情書」を不採択
庁舎内での政党機関紙の勧誘行為や議員からの心理的圧力を感じている職員の有無について総務課に確認したところ「ない」とのことから、全会一致で不採択とすべきものとした。

「国」重要伝統的建造物群保存地区」選定を目指し、養蚕集落を制度に基づく保存地区選定に関する請願書」を趣旨採択

選定にあたっては、該当する建造物の所有者や保存地区内の住民等に対して、一定の制約が生じることや個別の同意が必要となることなどの課題があることから、賛成多数で趣旨採択とすべきものとした。

視察研修

村内3保育園視察

本常任委員会の冒頭で、村長より「少子化に伴い、令和9年度に向けて、第1、第2保育園の統合を目指す。」旨の説明があった。現状と今後の見通しを把握するために視察研修を実施した。

① 子育て保育園（令和7年度未入所者数84名）

「平成18年は117名の入所者がいたこと。令和6年4月より、利用定員80人規模になったこと。」の説明を受けた。

また、「物価上昇に伴い、光熱費、消耗品費（おてふき、ペーパー類）や食料費の負担が増加しており、民間保育園ということもあり、国、県、村からの限られた補助金の中の運営は大変である。」旨の説明もあった。

② 第2保育園（令和7年4月入所者数17名）

「4・5歳児が10月までは1クラスで、10月以降は就学に向けて5歳児を分けていること。第1保育園と合同で、行事等を行うこともあること。」の説明を受けた。

また、「施設の老朽化のこと。園児数の減少もあり、集団生活への対応を心配し、保護者から合併の声も聞かれること。」等の説明もあった。

③ 第1保育園（令和8年3月入所者78名）

「地域子育て支援センター（本年度77親子の利用）や一時保育事業の利用状況。平成18年に保育定員を100名にし、現状余裕があること。」の説明を受けた。



園長から説明を受ける（第一保育園）

今後について、「第2保育園と合併しても園舎に余裕があること。最大110名受け入れ可能なこと。園児が増えることで活発な活動が期待できること。」等の説明もあった。

視察の中で、子どもたちの笑顔あふれる活動や健やかなお昼寝。

また、園児と優しく真剣に向き合う保育士さんのひたむきな姿が強く心に残った。「将来を担う子どもたちにとって、どのような施策を展開していく必要があるのか」改めて問題提起された。

文教産建常任委員会

教育、産業、経済、土木、建設、簡易水道、農業集落排水などに関する事項を所管

請願5件を審査、採択2件・継続審査1件、趣旨採択2件

3月11日に文教産建常任委員会を開催し、請願5件について、現地調査を行い、状況等を確認し審査しました。

審査

「住宅上段の畑からの泥水等の流出を防ぐ改善の要望を求める請願書」を採択

豪雨時に上段の畑から土砂や泥水が大量に住宅へ流れ込み、土砂崩れの危険性があるため、安心した生活ができないとの説明を受けた。これらを踏まえ、全会一致で採択すべきものとした。



住宅への泥水流出

「村道大坂中野線の道路再舗装工事のお願い」の請願を採択

本路線は中野区の生活道

路や農作業用道路として多くの住民が利用しているが、水道管や農業用管路の埋設工事に伴う補修のみで、路面にひび割れや損傷が発生し、通行に支障をきたしているとの説明を受けた。これらを踏まえ、全会一致で採択すべきものとした。

「昭和村総合運動公園、多目的グラウンドの人工芝に関する請願書」を継続審査

人工芝化によるケガ防止などの安全性向上、天候に左右されない利用、雑草対策、スポーツを通じた交流人口の増加など、村の活性化にも繋がる旨の説明を受けた。これらを踏まえ、人工芝化の利用方法や、費用対効果などについて、さらに調査・研究が必要と判断し、賛成多数で、継続審査とすべきものとした。

「生越地区村道坂之上境塚線舗装改良工事を求める請願書」を趣旨採択

やや傾斜のある村道であり、舗装の劣化が進み亀裂

が生じているため、豪雨時には雨水が浸透し、舗装が浮き上がる危険性があると説明を受けた。これらを踏まえ、賛成多数で趣旨採択すべきものとした。

「生越清水地区での道路舗装排水対策を求める請願書」を趣旨採択

清水地区の赤線道路について、ゲリラ豪雨等により上流部から雨水があふれ出し、既存の排水溝へ流れ込まずに、隣接の住宅へ流れ込む被害が発生しているとの説明を受けた。これらを踏まえ、賛成多数で趣旨採択すべきものとした。

所管事務調査

問 松食い虫防除対策事業は。

答 産業課

総合運動公園付近と、追分住民センター内、記念碑周りの松を残す予定。

問 多面的機能交付金事業で水路兼道路の補修は可能か。

答 建設課

簡易な穴埋め程度の補修であれば多面的機能交付金事業で対応が可能。工事を伴う大規模なものは小規模農村整備事業で対応を検討。

問 A L T (英語指導助手)による、一般村民対象の英語教室の開催は。

答 教育委員会

A L Tについては、本来の業務範囲のみの契約。英会話教室等は、社会教育の中で対応を検討する。



視 察・調 査・トピックス

第4回昭和村はたちの記念式典

1月11日、今年二十歳を迎えた53人が式典に参加。

級友や恩師との再会を喜び笑顔でいっぱいでした。



給食試食会

1月23日、給食センターの設備や学校に届けられるまでの流れ等の説明を受けながら、給食を試食。おいしくいただきました。



賀詞交歓会

1月12日、村内企業や各団体関係者など約100人を招いて、新年の挨拶を交わしました。



ウィンターフェスティバル

2月14日、第31回ウィンターフェスティバルが開催され、村内企業、利根沼田首長・議長、取手市長、玉村町長・議員の皆さまを招き、交流会を行ったのち、冬の花火を鑑賞しました。



全国町村議会議長会表彰

2月13日、県町村議会議長会において、加藤生議員が「町村議員として15年以上在職し功労のあった者」として、永井一行議長が「議会の運営及び地域の振興発展に功労のあった者」として、それぞれ

加藤議員においては群馬県知事より感謝状が贈呈されました。




令和7年度 議員出前懇談会 要望に対する回答

議会を身近に感じてもらい、村民の意見を村政へ反映させることを目的に、村内6会場で実施しました。皆さまからいただいた「ご意見」「ご要望」「お困りごと」の中には、長期間にわたり取り組むべき事項も含まれておりますので、議会でも引き続き調査・研究を進めてまいりたいと考えております。今後とも村政発展のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

| 開催日 | 開催場所 | 参加人数 | 1月26日(月) | 地域活性化センター | 10人 |
|----------|----------|------|----------|-----------|-----|
| 1月20日(火) | 赤城原区民館 | 4人 | 1月27日(火) | 入原住民センター | 6人 |
| 1月21日(水) | 生越住民センター | 23人 | 1月28日(水) | 追分住民センター | 12人 |
| 1月22日(木) | J A 南部支店 | 7人 | 合計 | 6会場 | 62人 |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 総務課 | 意見 | 防犯カメラの設置について、トラクターの盗難が多いので、警察署等と協議して効果がある場所へ本格的な防犯カメラの設置をお願いしたい。また、周知することで抑止力としても期待ができる。 | |
| | 村回答 | 防犯カメラは、現在、村の出入り口や主要な幹線道路沿い、公共施設を含め33箇所に設置していますが、犯罪の抑止力強化を図るため、関係機関と協議し計画的な増設と周知をしていきます。 | |
| | 意見 | 自主防災組織について、組織を作ることはできるが、防災備品を保管する倉庫を確保できない。村で推進している事業なので、防災倉庫等の初期投資の部分は村に負担してほしい。 | |
| | 村回答 | 自主防災組織の推進をしていくうえで、今後、防災倉庫の設置等の村補助金について協議していきます。 | |
| | 意見 | 消防活動について、自主防災のためには消防団がなにより重要。自主防災組織を作るにあたって、区長は毎年変わるので防災士がいるとスムーズにできる。防災士の受講料が高いので資格を取りやすくするようにするののも一つの方法。 |  <p style="text-align: center;">生越住民センター</p> |
| | 村回答 | 災害に関する知識や技能を持つ防災士がいることで、自主防災組織の設立、設立後の運営がスムーズになるため、防災士の資格取得費用の助成について協議いたします。また、消防団の分団長経験者は資格取得にあたり、試験等が免除される制度があるため、消防団の会議等で周知いたします。 | |
| | 意見 | 防災無線について、地区・場所によって全く聞こえないところがある。有事の際に必要なものであるのだから、聞こえないところを調査し再配置していただきたい。また、緊急告知FMラジオも連携して配置できれば良い。 | |
| 村回答 | 皆様のご意見を参考に子局やスピーカーの増設、方向調整などを行っていきます。緊急告知FMラジオの配置については、本体及び周辺機器を総務課で購入していただけます。 | | |
| 企画課 | 意見 | 森下分譲地について、違った角度からもアピールをもっとした方がよい。また、信号で止まった車から分かるサイズで問い合わせ先を設置したり、企業へも周知しても良いのではないかと。 | |
| | 村回答 | 周知については、1月発行の上毛新聞の「ぐんま愛」に掲載、村内企業には、販売開始をした昨年5月に案内をしております。また、東京での移住相談会やふるさと回帰支援センターで分譲地案内の周知をしています。今後も村内だけでなく、機会をみていろいろな場面で多くの人に触れるように工夫して参ります。 | |
| | 意見 | 追分の松について、企画課で村木として登録されたが、どのような経緯で登録されたのか分からないので、説明文の入った看板を設置していただきたい。 | |
| | 村回答 | 名木の選定は、平成12年度の村づくり実行委員会の提言により、村づくり実行委員会で実施しています。追分の松は平成22年度に選定したもので、看板は未設置となっておりますので、今後、看板設置の可否や時期、記載内容について、村づくり実行委員会にて協議を行って参ります。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 健康福祉課 | 意見 | 保育園の統合について、小中学校の統合に併せて、保育園の統合も考えていく必要があるのではないか。 |
| | 村回答 | 少子化の影響により、特に第二保育園の園児数が著しく減少しており、施設の老朽化も進んでいることから、公立2園の統合を視野に入れた検討を開始いたします。今後、説明会やアンケート等を通じて保護者等のご意見を伺い、子どもたちの未来にとって最善の形を共に模索してまいります。 |
| | 意見 | 子どもインフルエンザワクチン助成について、国では生後6ヶ月から13歳未満へのワクチン接種について2回を推奨しているのので、2回目の接種を望んでいる保護者のために2回目についても助成金をお願いしたい。 |
| | 村回答 | 子どものインフルエンザの予防接種は「任意接種」となっており、任意接種は、行政として積極的に接種を推奨しているものではなく、感染しないための予防方法を正しく啓発することが、重要な役割であると考えております。子育て世代を支える村づくりという観点から、大変貴重なご意見と受け止めておりますが、限られた財源の中で行政運営を行う必要があるため、行政本来の役割や世代間の公平性などを踏まえながら、今後も行政運営を図っていききたいと考えております。 |
| 産業課 | 意見 | 道の駅めぐりーむ昭和について、集客力が上がったことで旬菜館のレジが混み合っている。改善する考えはあるのか。 |
| | 村回答 | 現在の旬菜館では、手狭となっているため、売場等の増設は必要と考えています。更なる増築は難しいため、隣接地に増設する方向で、現在設計計画を進めております。早期に実施し改善を図っていきます。 |
| | 意見 | 竹林整備について、緑の県民税での竹林伐採後の管理は、2・3年目に集中して除草剤を散布しないと元に戻ってしまうので、補助金の上乗せをお願いしたい。 |
| | 村回答 | 竹林整備は、伐採後の適切な管理が重要であることは十分認識しており、継続的な下刈りや除草剤散布等による管理作業が適切に行われることを、村としても望んでおります。管理経費については、わずかですが県の補助金単価が増額されたところですが、村の補助金上乗せについては、今後の制度運用や現場の実情を確認しながら検討してまいります。引き続きご協力をお願いいたします。 |
| | 意見 | 現在の小型チップパーは導入から10年以上経過し処理能力が低いため、処理能力の高い最新の小型チップパーへ更新してほしい。 |
| | 村回答 | チップパーの更新については、導入から11年が経過し、故障や修理費用が増加している現状から、令和8年度緑の県民基金事業において、中型チップパー2台を購入する計画書を県に提出しています。 |
| | 意見 | ごみの収集ボックスについて、現在はコンテナにネットをかけた簡易的なものであるが、近隣では屋根扉付きのボックスとなっている。ゴミ出しはマナー的な要素もあるが、屋根付きを検討してほしい。また、資源ごみの回収頻度が少ないため、いつでもいける資源ごみステーションがあるとよい。 |
| | 村回答 | 屋根付きごみ収集ボックスの設置は、村内101箇所とごみステーションが多く、設置や管理方法を行政区と協議する必要があり、多額な購入費用がかかるため、今ある設備で動物等による散乱防止等の対策を考えながら対応して参りたい。また、いつでも行ける資源ごみステーションの設置については、収集場所、収集体制や不法投棄防止の観点から慎重な検討が必要となりますが、容器包装プラスチックについては、令和8年度から地域で行う資源ごみ回収日の他に毎月2回、ごみステーションでの回収も行うことといたしました。 |
| 意見 | J R東日本とJA利根沼田との連携事業について、試験的に実施したと聞いたが、実際の運用方法やどのような条件で利用ができるのか等、詳細な内容を説明する機会は設けられるのか。 |  <p>JA 南部支店</p> |
| 村回答 | J R東日本とJA利根沼田との連携事業について、取り組みの主なものは、1日単位でのJ R職員の副業として農作業支援を行う「dayworkアプリ」の活用、新幹線の「はこびュン」を活用した首都圏エリアの主要駅における野菜PR等を検討しています。今後協議が整い次第、広報等でお知らせいたします。 | |
| 建設課 | 意見 | 望郷ラインの標識・標示について、望郷ラインに繋がる道路に止まれるの標識や標示がないため危険で、大事故になる可能性が高いため対策をお願いしたい。また、南側の終点(赤城高原SAの東)の交差点は左折と右折の標示はあるが、直進はどちらの車線へ行って良いのか分からない。 |
| | 村回答 | 比較的狭い道路から接続する交差点については、見通しの悪い場所など危険箇所を確認しながら、村の交通安全担当課とも協議し、注意喚起の看板の設置を検討してまいります。また、望郷ライン南側終点の交差点における直進矢印表示については、関係機関である沼田警察署とも協議を行い、必要な対応について確認いたします。 |
| | 意見 | 雨水対策について、生越外周や貝野瀬地区は大きな排水路がないため、たびたび大雨の影響を受けている。多面的支払交付金では、認定道路のため改修できないので、小規模事業等を活用して整備してほしい。 |
| | 村回答 | 令和8年度に小規模事業を活用して、貝野瀬地区で排水対策工事を2箇所計画しています。また、多面的機能交付金事業では用悪水路の泥上げ作業が対象となりますので活用していただき、災害対策として、排水路等の維持管理をお願いいたします。 |

| | | |
|-------|--|---|
| 建設課 | 意見 | 除雪について、村内事業者が減ってしまい、大雪警報等の時には、他の地区から重機を借り入れ対応をお願いしたい。 |
| | 村回答 | 村では村内の除雪路線を定めており、毎年、降雪前に村内事業者と調整会議を行っています。しかし、建設事業者の減少により除雪作業の負担が大きくなっていることから、村で除雪車を購入し、事業者の負担軽減と除雪体制の維持を図ります。また、大雪時には重機の確保に加え、オペレーターの確保も大きな課題となっておりますので、地域内の生活道路の除雪では、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。 |
| | 意見 | 上下水道管の老朽化について、12月から1月の間に3件の漏水があった。上下水道管の老朽化については全国的に問題となっており、計画的に更新を進めてほしい。 |
| | 村回答 | 管路の老朽化については、全国的な課題であり、本村では、毎年度予算計上して埋設状況や過去の漏水状況などを考慮しながら計画的に布設替え工事を行っています。また、農業集落排水事業区域の下水道本管については、どのような工法が経済的で、利用者にご不便がないかを慎重に見極めながら、進めたいと考えています。 |
| | 意見 | 道路愛護等の奉仕作業について、戸数の減少や高齢化が進んでおり、負担が大きくなっている。みんな自分の地区を綺麗にしたい気持ちはあるが、現実的にやれる範囲は少なくなっている。また、大規模農道などは交通量も多く危険なので、そういった場所は村で対応してほしい。 |
| | 村回答 | 道路愛護作業について、村としては、無理のない範囲で作業に取り組んでいただくことを基本とし、特に交通量が多い場所や危険が伴う箇所については、安全を最優先に、村へご相談いただきながら対応して参りたい。 |
| | 意見 | 道路の凍結について、関越のトンネルを抜けてから菜の花館の上のカーブまでが冬季は長期期間凍結する。道横の木を伐採や民地で難しいのであれば電熱線を入れていただきたい。 |
| | 村回答 | 冬季において日照条件の影響などにより、路面が凍結しやすい状況にあることは認識しております。沿道の樹木を伐採し日照を確保することができれば、自然融解の促進になるところですが、当該箇所は民地に関わる樹木であるため、対応には一定の調整が必要となります。また、ロードヒーターの設置については、設置工事費に加え、毎年多額の維持管理費用が必要となるため、慎重な検討が必要となります。 |
| | 意見 | 集中豪雨の対策について、昨今、ゲリラ豪雨等の降雨によって畑の土が流されることが増えている。道路に流出した土砂の処理は予算化して村で対応が可能なのか。 |
| 村回答 | 土砂の流出により、道路の通行に支障をきたす場合など緊急時には村で対応していますが、予算にも限りがありますので、なるべく耕作する畑周辺の土砂の流出については、耕作者の皆様に処理をお願いしております。また、表土の流出を未然に防ぐため、グリーンベルトの設置や土側溝等による雨水対策なども、ご協力をお願いいたします。 | |
| 教育委員会 | 意見 | 学校建設候補地について、学校建設候補地の変更経緯や中学校の洪水浸水想定区域について、どのような考えなのか。 |
| | 村回答 | 建設委員会時にあった2候補地が残らなかったのは、他の候補地より優位性が見いだしにくいため一部候補地を除外し、公共施設の隣接地という利点があることから、新たに候補地に加えたものです。次に、「洪水浸水想定区域」については、昭和中学校建設後に水防法改正によって導入されたもので、浸水対策を含めメリット・デメリットの協議を進めているところです。昭和村統合小中学校推進協議会の経過については、村のHPにて確認してください。 |
| | 意見 | 昭和中学校の制服について、昭和中の女性の制服が10万と非常に高額に感じている。制服を着る機会も少ない。村内には制服のリユース事業を考えている方がいるようなので、村と連携して制服を無駄にしないように回せる仕組みができるといい。また、統合後の制服については高額にならないよう検討してもらいたい |
| | 村回答 | 制服等の購入は、物価高騰の中で家計への負担も大きいと推測されます。村では中学校入学時に5万円の入学祝い金制度をスタートいたしました。そうした中、制服のリユース活用も経費削減の対応策の一つと考えられますが、都市圏と比べて提供者の人数も限られることが想定されます。また、制服のサイズや制服の状態などのマッチングの難しさをどうするか、福祉的側面から民間の力を借りられないか等を調査・研究していきたいと考えます。また、統合小中学校の制服については、今後「準備委員会(仮)」等、制服に関わることも含めた協議を行う会議体を立ち上げて検討していきたいと考えております。 |



地域活性化センター



林 勝美 議員

重要伝統的建造物群保存地区 指定について

村長 現段階では、登録に向け熟考段階である

問 過去の取り組みが立ち消えになった要因や経緯について、どのように総括しているのか。

答 村長

「NPO法人『街・建築・文化再生集団』(通称RAC)」により平成11年から進められた。平成16年にはRAC、教育委員会、村内の社寺仏閣の調査が行われ、翌年には養蚕農家の家屋の保全調査に対する助成事業へ申請をしたが、不採択になったためである。

問 シンポジウムを通して、村の課題や今後への示唆を得ることが出来たのか。

答 村長

2回の現地視察、基調講演、シンポジウムを実施し、パネラーとして参加した。村内に残る養蚕古民家群は歴史を伝える

貴重な文化遺産であり、その景観は村の大きな魅力であると認識した。同時に重伝建指定の主要な課題や示唆を得た。

問 重伝建登録について、村としての方向性と認識は。

答 村長

登録及びその環境を保全するためには、条例の整備や専門職員の配置、さらには様々な規制が課されることを認識している。村の文化遺産を保護し、その価値を広く伝え、地域活性化につなげる有効な選択肢である。意義のメリット、制約や課題を整理し、より良い判断が出来るよう努める。



JR東日本高崎支社との 援農プログラムとは

村長 「AIプロジェクト」の提案を受け、援農支援活動を受け入れた。

問 実際にプログラムに参加した農家からの評価や意見、またJR側のメリットや意義は何か。

答 村長

こんなにやく掘り体験をしていただき、その後研修や意見交換を実施した。そこで双方のメリットや意義を確認した。現実的な取り組みは、これからである。

問 これからの方向性は。

答 村長

利根沼田農協を加えた3者間で協議し、援農プログラムを利根沼田に広げていく。バイトアプリ「daywork」の普及

活用を図り、農業に関わりがない方にも、農業を体験していただく機会を提供する。農繁期の労働力不足の課題やJRの副業を通じた生産者との交流を進める。課題の把握と地域と連携した施策検討を行い、農業の持続可能な未来づくりを目指していく。



援農プログラムへ参加する JR職員



沢浦 典子 議員

船ヶ鼻登山道付近の活用および整備について

村長 教育・観光・環境保全を考えていく



登山道から見える景色

問

百名山赤城山を昭和村から登ることが出来る船ヶ鼻登山道。この恵まれた環境を地元の小中学生に体験してもらい、自然を肌で感じてもらいたい。学校行事や課外授業等に取り入れてもらう事はできないか。

答 村長

郷土の自然を学ぶ具体的なフィールドとして活用し、自らの足で歩くことで郷土愛を育む機会を作っていききたい。



船ヶ鼻登山道山頂

問

登山道はもとより、結婚の森の山桜、そばの花、そして谷川・武尊と遠くに見える山々、さらに夜になれば空いっぱい星。ぜひ、観光地として人を呼ぶ為にキャンプ場の新設をお願いしたい。また、山頂にトイレを置くことで登山者も安心して登山ができるのでは。

答 村長

キャンプ場については、環境保全や法規制の観点を踏まえつつ慎重に考える。トイレについては、船鼻岳遊会の方々と相談しながら話を進めていきたい。

問

山林を整備することにより、登山者の安全を守る。見渡しがよくなることで、獣も遠ざかる、また、間伐材等も利用できる。山林整備は必要なのでは。

答 村長

登山道周辺は、国有林であることから、利根沼田森林管理署と緊密に連絡し、計画的な整備の実施を働きかけていきたい。

林 栄一 議員



村民憲章を礎にした村づくりを

村長 礎とし将来を見据え財政面を考えて進めたい

問 合併30周年記念に向け制定された村民憲章は、村づくりに活かしているのか。村民憲章に対する認識と「村の木は桜」である中、婚約者記念植樹事業を廃止した考え、今後の結婚の森の利活用は。

答 村長

村民憲章の碑は、新庁舎に移転してからも、玄関前に設置。村の基本理念であり理想像で、非常に重要と考える。平成13年度から婚約者記念植樹を実施。「人生の記念に木を植える」希望者が年々減少。植樹場所も限られ、廃止を決めた。今後は定期的に除草作業等、適切な管理を行い、新たな活用方法を模索したい。

答 住民課長

行財政改革推進委員会で、職員が村の将来を真剣に考え、目標の約千本



庁舎前の村民憲章の碑

の桜植樹を達成。次の段階へ進める好機と考えた。

いじめや不登校(ユニパス)の実態と支援策は

教育長 地域との連携の在り方など調査研究をしたい

問 全国的にいじめや不登校の問題が報じられているが、本村にも同様な実態があるのか。特に小中学校では、いじめの発生が懸念され、早期発見や対応、適切な取り組みが求められるが、現状と改善策は。

答 教育長

いじめの苦痛に軽い重いの区別はない。受けた本人が嫌だと感じたのは全て「いじめ」と認知。村内3小学校で年度に10件、中学校で2、3件の報告を受けている。教職員や支援員の連携と観察

問 「新しい人の流れの創出」で、長期展望の上で昭和村が限りなく躍進に繋がるよう、村民憲章の基本理念を礎にした村づくりを進めて欲しい。

答 村長

具体的な村づくりの方向性を示す「総合計画」や「総合戦略」で、将来を見据え財政面を考え進めたい。

答 教育長

事情は個々様々で、一概に括ることは出来ない。各学校で、スクールカウンセラーや、関係機関と連携し、保護者や本人との繋がりを確保している。県が示すユニパスの理念に「一人一人の多様な生き方や学びを大

問 不登校は心理的・情緒的要因や家庭環境が影響していると考えられるが、実態と支援策は。

答 教育長

年々複雑化・多様化している。全ての児童生徒が安心して教育を受ける環境づくりに、関係機関や地域との連携の在り方など、調査研究をしたい。

問 保護者たちの研修の場や地域社会が見守り、いじめや不登校を解消させる取り組みが、更に必要と考えるが。

切にするため、未来塾や県の「つなサポ」など多様な学びを確保し進めている。



堤

宏康

議員

義務教育学校建設候補地への思い、願いは

村長 子どもたちが伸び伸びと生き生きと学問に励める候補地でなければならない

問

村長は、就任以降、学校問題について、執行機関と議会のそれぞれの立場を明確にし、実務を担う教育委員会が取り組みやすいよう、様々な環境を整理してきました。村の最高責任者として、候補地の絞り込みについての、思い、願いをお伺いしたい。

答 村長

ソフト面の充実がまず第一。その上のハード面。推進協議会のほうでしっかりと練って、子どもたちが本当に伸び伸びと生き生きと学問に励める候補地を絞り込んでもらいたい。

問

昭和村の未来を担う子どもたちにとって、通いたいと思う学校であり、また、真に一つの村の象徴となることを切に願っています。より多くの村民の方々のご理解ご協力を得られるよう進めていかなければなりません。どのような手順で、「建設候補地

答 教育長

推進協議会において、事務局側が原案を出して推進協議会に諮り、その方向性を共有した後に決定している。

建設候補地選定のための、評価方法は

教育長

候補地の評価シートを基にした協議を進め、協議会における建設候補地(案)を決定したいと考えている

問

建設候補地絞り込みのための、評価方法の協議は。

望、建設費見積もり資料要求が出された。2月20日に、洪水浸水想定地域の聞き取りを行った。また、建設費総額が村の年間予算の2倍近い額まで膨らんでいるため、財政

委員と練り合わせながら変化していく。今後は、候補地の評価シートを基にした協議を進め、協議会における建設候補地(案)を決定したいと考えている。

答

教育長

1月17日に、6候補地の現地確認を実施し、同時に、今後も判断に必要とする観点と評価の検討を重ねた。1月27日に、

評価シートを先送りにした。評価シートの原案は出したけれども、項目内容、何点ぐらいで評価をしていくかも全て推進

問

いわゆる後付の評価で特定の候補地が有利となることがないか確認したかった。そこで、取組の経緯が分かるよう、協議会の1年間の会議録等を整理して、住

答 教育長

8年度中に建設候補地が決められ、基本計画の策定に取り組みたい。協議会案として絞られた段階で、地域説明会、区長会等への説明となる。また、総合教育会議を村長に打診し、共有を図りたい。

1月27日に、絞り方(案)の一部を修正し、候補地評価シートを提示した。この中で、洪水浸水想定地域の説明要



林 幸司 議員

統合校の場所は 村民投票に準ずる方法で

教育長 対話を通じ透明性のある候補地選 定を進めていきたい

問 ①総合運動公園が白紙撤回となった教訓は。②最終的な場所の法的決定権は。③場所は村民投票又はそれに準ずる方法で決めるべきでは。そもそもスクールバスは何km以上で運行するのか。候補地別の建設費用推計も公表すべきではないか。

答 村長

①建設場所の議論が先行してしまったこと。体制が適切でなかったこと。村民との合意形成において十分な説明、理解がなされないまま進んでしまった点となります。

答 教育長

②場所の法的決定権は、学校設置条例と予算の決定に議会の議決が必要で、これが可決された場合に、義務教育学校の場所が決定されます。

②統合小中学校推進協議会は、村長に提言を行うことが目的、決定権を



森下関屋工業団地

持つ機関ではありません。

③住民説明会を実施し、ご意見を伺い対話を通じて透明性のある候補地選定を進めてまいります。

スクールバス関係は想定できておりません。候補地選定の大変重要な要素と認識しており、河岸段丘地形、酷暑、線状降水帯、熊の出没等を考慮し、文科省の中学校6km、小学校4kmよりも内側の距離を進めたい。

予算額を大幅に超えた建設費用試算は、見直しを検討しています。資料は広報に掲載します。

新工業団地の進捗状況は

村長 候補地を模索しています

問 ①経過や進捗状況について説明を。②インター隣接地と開発規模について伺いたい。③県企業局に事業主体を要請することについて。

答 村長

①担当職員を配置し、関屋工業団地周辺を6カ所に区分し、計152筆、面積38万7913㎡を確認。ほぼ農地が占めています。次に、オーダーメイド候補地5カ所、面積15万6258㎡、全て山林や雑種地の調査を実施。県と協議を行い、農地を極力外すことが適切と助言を頂いております。

②インター隣接候補地、山林と農地約9万㎡は、農転許可が出た場合、候補地は可能。望郷ライン上は、保安林解除

消防8分団の詰所は

村長 建替え改修など協議

問 ①経過説明を。②現在地での建替え、又は既存施設の改修を求めます。

答 村長

①老朽化に伴い建替え計画を伝え、分団員の希望が最も多かった場所は、現在地(旧J A貝野瀬支所)でした。

②場所の選定、建替え又は耐震改修など、本団及び8分団との協議を重ねてまいります。

が必要となり難しい。道の駅隣接地は優良農地で農振除外が課題となり難しい。開発規模は、20畝以上が良いと思います。

③県候補地選定基準を満たしておらず、県企業局に事業要請を行う段階には至っておりません。



加藤 生 議員

若者に魅力ある建設業に

村長 労働環境の整備・適切な休日設定が望まれます

村内建設業者減少の危惧

村長 入札参加資格業者5社

問 村内建設業者減少傾向にあり、除雪や災害復旧といった喫緊かつ重要な事業が困難になるのではないかと心配です。

そこで村が安心・安全であるために、村内業者の育成について、どのような方針、また施策をお考えか。

答 村長

冬季除雪作業5社となっています。業界では人手不足と労働者の高齢化と若年層の建設業離れが顕著であり、極めて重大な課題です。

これらを踏まえて村内業者の育成については、労働環境の整備と適切な休日設定が不可欠であり、上級官庁同様に、無理のない工期の設定や除

雪機械については村で購入し、委託発注するなど考えております。



電子入札

企業誘致の進捗状況は

村長 候補地の調査を進めています。

問

関屋工業団地の4社以降、新たな企業誘致が進んでいませんが、今後の具体的な推進策はどのように考えていますか。

答 村長

本村の持続的発展と活力ある地域社会の実現に不可欠であると認識しており、新たな工業団地の

造成に向け、候補地の調査を慎重に進めている段階となっております。候補地が明確化された後、速やかに村の将来像に合う誘

致対象業種、企業の選定基準を策定したい。また、本村の発展にも貢献し得る企業の誘致を進めたい。



昭和インター・関屋工業団地俯瞰

村の姿勢 問

一般質問

佐藤 好美 議員



利根沼田望郷ライン線最南端から、 渋川市赤城町に向かう道路整備を

村長 関係市町村との協議・費用対効果の
検証が必要

問

本村は「やさしい王国昭和村」を掲げ、首都圏の台所として、新鮮野菜を提供しています。物流面も関越高速道路や昭和インターチェンジ線と充実が図られています。

本村は「やさしい王国昭和村」を掲げ、首都圏の台所として、新鮮野菜を提供しています。物流面も関越高速道路や昭和インターチェンジ線と充実が図られています。

しかしながら、利根沼田望郷ラインとして整備された道路は、本村内の村道桂坂線までで、そこから南側の渋川市赤城町へとは繋がっていません。

そこで、望郷ラインが整備される事により、生産者にとっては、冬季等の耕作地として、アクセスが向上し、基幹産業の農業もさらに発展すると考えます。

景観も豊かですので、観光目的にも繋がります。ぜひ、望郷ラインの前橋方面への延長と、その計画の策定・推進を求めます。

答 村長

望郷ラインが、赤城町を通過し、前橋方面まで接続されることにより、利便性が向上し、農業や観光の振興がはかれるかもしれません。

望郷ラインを延長するためには、関係市町村との十分な協議と協力、費用負担を含めた理解を得ることが不可欠です。費用対効果を総合的に検証

していきたくと考えています。



望郷ライン最南端

義務教育卒業祝い(満15歳時)の新設を

村長 義務教育学校開校の節目を
見据え真に有効な支援研究

問

義務教育が終了すると、高校進学や職業に就く等、社会へ立ちます。

そのときの子ども達と、保護者の思いは感慨深いものがあります。その卒業祝いと、社会への旅立ちのエールを込めた、義務教育卒業祝いの新設を求めます。

答 村長

子どもたちの成長の節目を祝い、応援という提案の趣旨は、村の未来を考える上で大変重要。

今後義務教育学校開校の節目を見据えた、子ども達にとって、真に有効な支援の在り方を、財源等も含め研究していきたく考えます。

訪問理美容サービス利用料の助成制度を

村長 導入自治体の運用状況等を
調査・研究

問

訪問理美容とは、理美容師が自宅や施設などに出向いて、髪の毛のカットやシャンプー・ヘアカラー等の理美容を提供することです。

県内35自治体の内、高齢者や障害者など、利用料の助成制度を行っています。心身の健康のための村民に優しい助成制度を求めます。

答 村長

高齢者等に対する、訪問理美容サービスが、心身の健康維持や生活の質の向上に寄与することは、十分に認識しています。

住み慣れた地域で尊厳を持って、暮らし続けるための支援は、本村の福祉施策における重要なテーマの一つです。

問

大学入学・在学中に係る資金について、奨学金を借り受け、将来において本村に貢献・定住する等、意欲がある若者に対して、奨学資金返済に対する給付の制度を設けて欲しいとの一般質問がされました。

将来、昭和村の若者定住化に繋がる支援であるという趣旨です。

答

村当局は、大学卒業後、本村居住を条件とした給付型奨学金給付制度の導入は、村の将来を担う意欲のある若者の経済的負担をなくし、若者の定住化を進めるのに効果があると考えます。

今後、積極的に調査・研究していきますとの回答がありました。

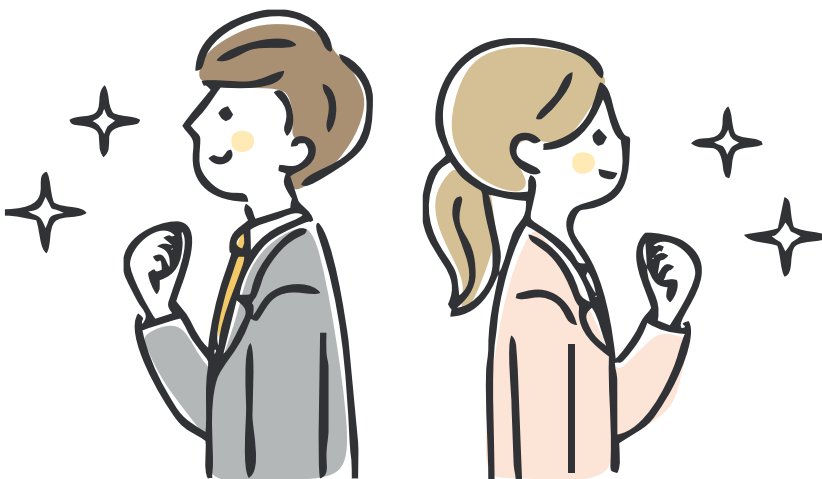
その後

若者の定住化促進のため、35歳未満の村内居住者に対し、年度内に返済した奨学金について、年間10万円を上限に、5年間補助するための、新制度ができました。

補助金の一部は特別交付税の対象になります。

- 令和6年度支給者(実績)..... 6人
- 令和7年度支給予定者(見込み)..... 18人
- 令和8年度支給予定者(新年度予算)..... 20人

※令和8年3月18日現在



あの問題は



議員が行う提言などは、村政にどう反映されているのか。皆さんからの意見要望等は、どのように処理されているのか。請願・陳情を含めて、その後の経過を追跡しました。

地域でがんばる人



大河原小児童へ語り継ぐ 赤城高原開拓時代の思い出を



久しぶりに大河原小学校から頼まれ、赤城高原開拓時代の思い出を、六年生に話しました。開墾する際に使用したトンビ鍬を持って行き、感触を確かめてもらいました。

私は現在93歳。入植したのは終戦翌年の昭和21年6月で、13歳でした。



トンビ鍬を持ち開拓当時を語る

開拓当時、まず雨露をしのぐ小屋を建てましたが、カヤを刈って屋根や壁にしたので、雨漏りしました。むしろを敷いた座敷を造り、囲炉裏で食事の用意をしました。食糧は主に軍馬用のトウモロコシやコーリヤンで、ニシンはご馳走でした。

開墾に使う農具も完全なものはなく、戦時中は陸軍の演習場だった原野は、藤つるやバラが生え、トンビ鍬で土を掘り起こす作業は重労働でした。開墾はスジ掘りで、大豆や小豆、アワなどを播くのですが、その種さえ入手困難で前途多難を極めました。

この地域は昔から水が無く、約3km離れた出入の湧水地へ約一時間半かけて、毎日のように水を汲みに行きました。風呂は野外に据えられたドラム缶の五右衛門風呂で、貸し借りは常でした。

私は自分の体験から「人は困難にぶつかった時ほど、知恵や力が発揮できるし、努力を続ければ結果はついてくる」と信じています。

今では、大規模営農による高原野菜の産地となり、やさい王国として知られるようになりました。

限られた時間内で話すには限界がありました。高崎市の鈴木越夫氏が、私の開拓時代などについて記した戦時中のくらしと「赤城高原開拓物語」を出版。私も赤城開墾「水が命」―戦後を生き抜く開拓者の記録―を出版したので、より正確に当時の出来事を後世に伝えることができました。2冊とも村公民館へ寄贈してありますので、興味のある方はご覧になってください。元気なうちは、これからも語り継いでいきたいと思っています。

堀 道雄さん (追分)

編集室から

3月定例会で新年度予算が成立し、8年度がはじまりました。また、冬季オリンピックでの日本人の活躍で、たくさんの方の勇気と感動を与えてもらったと感じたのは、私だけではなかったと思います。春は就職や進学で村を離れていく人も多いでしょう。そんな皆さんが、昭和村に帰りたいと思う村づくりを心がけていきます。また、議会だよりの感想やご意見をいただき、親しみやすい紙面作りを目指して参りますのでよろしくお願いたします。

沢浦 典子 記

議会広報編集特別委員会

- 委員長 林 栄一
- 副委員長 藤井 貞充
- 委員 阿部 孝司 佐藤 好美
- 堤 宏康 沢浦 典子
- 永井 一行



議会だよりの既刊号